

第43回全国高等学校総合文化祭将棋部門に参加して

棋道部

7月30日(火)、31日(水)の2日間、佐賀県江北町の佐賀のへそ・ふれあい交流センターで全国総文祭将棋部門が開催され、北高は男子団体戦に参加しました。スイス方式で予選4回戦を行い、3勝以上が決勝トーナメントに出場することになります。北高は2勝2敗で残念ながら決勝トーナメントに進出はなりませんでしたが、全国大会でも十分に戦える手応えを感じました。熱戦が多かった中、4回戦の一局を紹介します。

予選第4回戦の大將戦(北高後手)の局面から

図1は先手が4五歩とし、同歩 同銀 となった局面です。ここで4四歩と穏やかに指すのはつまらないとみて、7七角成 同桂 5五角(図2) と勝負にでました。

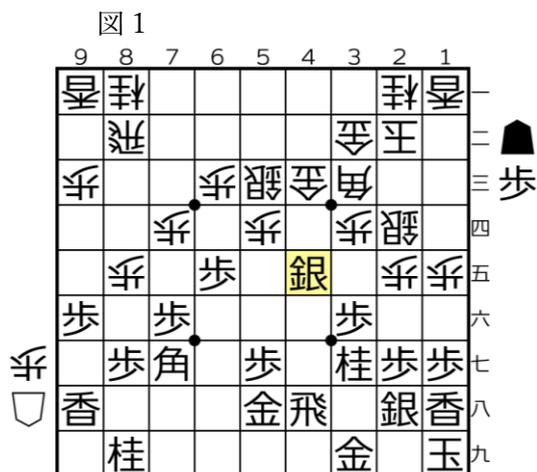


図2以下、6七金 2六歩 5六歩 となった後、角を逃げずに3七角成(図3)と踏み込んだのが図1からの読み筋で決断の一手でした。同銀 2七歩成と期待の反撃ですが、2八銀 2六歩 の後、4六角と両取りを掛けられます。(図4)



図4以下、9二飛 2四角 と進み、角銀と桂の交換となり大幅な駒損になりました。しかし、ここから1六歩の端攻めが急所で、同歩 1七歩 (図5) となった局面は有望となりました。駒損ながら玉頭の急所に攻めが殺到しており、うまく攻めをつなぐことができれば勝てそうです。

図5



図6



図5以下、同香 同と 2九玉 2三香 2五歩 2七歩成 同銀 同と 3八金 (図6) 図6以下は2四香としましたが、3七銀で勝勢のようでした。以下2七金なら 4八銀不成 6六角 3三桂 4八角 が一例ですが6九飛が厳しく寄り形です。時間に追われたこともあり、この順は逃したものの手数を掛けて寄せきりました。終局してみれば快勝だったと思います。

今後もしっかり練習し、力をつけていきたいと思います。